

新 藍・食藍推進プロジェクト事業

生産を『増やす』
マーケットを『拓く』

【平成29年度当初予算額 7,000千円】

背景

- ・藍の栽培面積は、明治36年をピークに16haまで減少、「すくも」を生産する藍師も5戸に減少。
- ・ポリフェノール等の藍の機能が注目され、藍のお茶やお菓子等の販売が始まっている。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック公式エンブレムに藍色の「組市松紋」採用。



食用藍の水耕栽培



藍ハーブティ



藍のマカロン

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて 藍・食藍を内外に発信

28
年度

藍の生産拡大

阿波藍

- ・藍師毎の課題整理
- ・栽培・作業マニュアル作成

食用藍

- ・高品質、低コスト、安定生産技術の検討

食藍の推進プロモーション

- ・藍・食藍推進ロゴマーク
「藍とくしま」^{くみ あいがいはもん}「組藍海波紋」の作成
- ・県産農産物と藍を使った商品の試作
- ・首都圏における藍・食藍のプロモーション



藍とくしま



組藍海波紋

26-

阿波藍の
生産確保に向けて

付加価値向上と
増産に向けて

食藍の
認知度向上に向けて

29
年度

藍師向け

＜対策＞ 20ha(すくも千俵相当)を目指す

- ・マニュアルを活用した新たな栽培農家の育成・確保
- ・藍師とのマッチング

藍の収穫機



食用等新規需要仕向け

5ha(H27比7倍)を目指す

- ・高品質、低コスト、安定生産技術の実証
- ・藍の機能性の研究

藍の水耕栽培



- ★体験による認知度向上
 - ・栽培から染色までの体験＋食藍体験
- ★食藍の商品開発支援
 - ・県産農産物と藍を使った商品開発支援
- ★食藍の販路拡大支援
 - ・藍・食藍のプロモーション



食藍商品イメージ

ロゴマークを
染め抜いた
のれん



藍の生産拡大と食藍の推進

将来的に概ね30ha程度の生産を目指す

藍 = とくしま

藍の6次化商品の販売拡大
機能性と生産性向上による食用藍拡大

担当：もうかるブランド推進課